

CSRLレポート 2020



NICHIAS
CSR
Report



「断つ・保つ」の技術で 地球の明るい未来に 貢献します。

Contents

会社概要	02	CSRの活動目標と実績	11
トップメッセージ	03	コーポレートガバナンス	13
社会の中のニチアスグループ	05	株主・お取引先とのつながり	14
SDGsの達成に役立つニチアス製品	07	お客さまとのつながり	15
		従業員とのつながり	17
		社会とのつながり	19
		環境への取り組み	21

特集
マキベエ®
建築現場の社会課題解決に貢献する
巻付け耐火被覆材「マキベエ®」



編集方針

ニチアスグループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みと社会的責任に関する情報をわかりやすく開示し、ステークホルダーの皆さまのご理解を深めることを目的に、CSR (Corporate Social Responsibility) レポートを発行しています。

報告範囲

ニチアス株式会社を中心に、下記項目を除きニチアスグループ全体について報告しています。

- ・「従業員とのつながり」(P17、18)の「メンタルヘルスケア」「人材の開発と育成」「ダイバーシティへの取り組み」「ワークライフバランスの推進」についてはニチアス株式会社単体を対象としています。
- ・「環境への取り組み」(P21～26)は、プラント向け工事・販売事業および建材事業の工事部門に関するデータを除いています。
- ・「環境パフォーマンス」(P23、24)は当社製造工場^{注1}、国内連結製造子会社^{注2}を対象としています。

注1:鶴見工場、王寺工場、郡山分工場、羽島工場、袋井工場、結城工場

注2:ニチアスセラテック(株)、(株)堺ニチアス、国分工業(株)、竜田工業(株)、大田化成(株)、(株)福島ニチアス、メタコート工業(株)、(株)君津ロックウール、(株)熊本ニチアス、(株)西日本ニチアス

報告期間

2019年4月1日～2020年3月31日

報告書発行時期

2020年6月(年1回)

(前回発行 2019年6月 次回発行予定 2021年6月)

編集・発行

ニチアス株式会社 CSRチーム

将来の見通しに関する注意事項

本レポートには、ニチアスグループの実績および将来に関する予測・計画などが記載されています。これらは現段階で入手可能な情報に基づいた仮定ないし判断であり、実際の業績や活動結果などについては異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまにはあらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

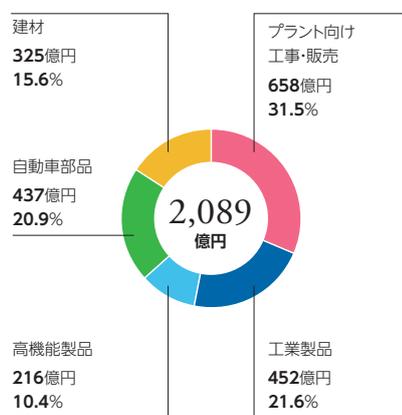
※®が付された名称はニチアス(株)の登録商標です。

※TMが付された名称はニチアス(株)の商標です。



事業分野

事業分野別売上高比率 (2020年3月期)



建材事業

不燃・断熱・耐火などの性能を備えた建材を提供するとともに、その建材を活用した施工事業も展開。オフィスビル、住宅、工場、研究施設などの、より安全で快適な空間づくりに貢献しています。



巻付け耐火被覆材



住宅用断熱材

自動車部品事業

シリンダーヘッドガスケットなどの流体の漏れを「断つ」機能部品であるシール材をはじめ、自動車の進化に対応する防熱、防音、制振関連の製品を提供しています。



シリンダーヘッドガスケット



超軽量防音カバー

プラント向け工事・販売事業

極低温から超高温に至る領域で、独自技術を駆使したエンジニアリングサービスやシール材などをはじめとする製品を提供。電力、LNG、石油精製・石油化学などのプラント施設に常駐体制を構築することで、各種工事やメンテナンス工事におけるお客さまのニーズにお応えしています。



保冷工事



シール材

工業製品事業

装置機器、環境、食品、医療、鉄鋼などの主要産業分野を中心に、ガスケット・パッキン、ふっ素樹脂製品、各種断熱材、フィルター製品などの幅広い製品を提供しています。また、全社のマザー事業本部として、新規事業創出の役割も担っています。



ロックウール断熱材



低濃度有機溶剤濃縮機

高機能製品事業

技術革新の速いエレクトロニクス関連産業分野の中で、半導体・FPD製造装置における、熱・薬液・ガスなどプロセスにかかわる先進の部品や部材を提供しています。



ふっ素樹脂製チューブ

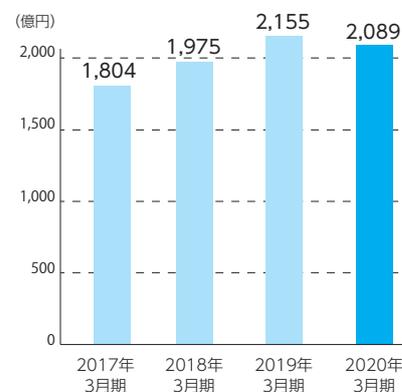


配管加熱・保温ヒーター

会社概要 (2020年3月31日現在)

商号 ニチアス株式会社
 NICHIAS Corporation
 設立 1896年(明治29年)4月9日
 資本金 121億円
 代表者 代表取締役社長 武井 俊之
 従業員 連結: 6,260人/単独: 1,729人
 本社 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

売上高推移 (連結)



営業利益推移 (連結)



120年以上の歴史の中で培ってきた
「断つ・保つ」の技術を活かし、
社会的な責任を果たし続けます。



代表取締役社長

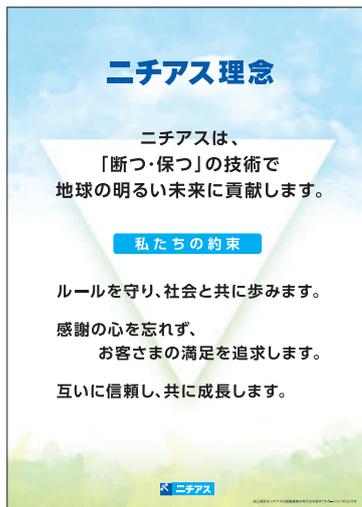
武井俊之

ニチアスの歴史と理念

ニチアスは1896年(明治29年)に、我が国における保温・保冷分野のパイオニアとして創業いたしました。以来120余年の歴史の中で、当社独自の技術である「断つ・保つ」の技術を深化させ今日に至っています。

当社グループの企業理念であるニチアス理念では、「ニチアスは『断つ・保つ』の技術で地球の明るい未来に貢献します」と掲げています。「断つ・保つ」の技術は、漏れを「断つ」、熱を「断つ・保つ」、音・振動を「断つ」、火を「断

つ]、腐食を「断つ」、グリーンを「保つ」という6つの技術から成り立っており、これらを活かした社会になくてはならない製品・サービスを提供することを通じて、社会から必要とされ続ける企業であることを誓ったものです。



ニチアス理念

昨今の状況における当社の役割

みなさまご存知の通り、2020年初頭から新型コロナウイルス感染症の猛威が世界を震撼させております。ウイルス感染によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

そのような状況のもと、当社グループの製品・サービスは国内外の産業、インフラ設備などの社会基盤を根底から支えており、製品・サービスを供給することが当社グループの社会的責任であると考えています。その責任を果たすべく、引き続き企業活動をおこなってまいります。

環境負荷低減へのさらなる取り組み

本年から、社会やお客さまにご使用いただくことで環境負荷低減に直接役に立っている当社グループの製品・サービスを「ニチアス環境関連製品」として定義しました。当社グループの製品・サービスは、お客さまの製品の内部に部品として組み込まれていたり、お客さまの製

造工程に貢献するものであったりと、製品・サービスの役割が表から見えず、みなさまにわかりにくいものが大半です。当社グループの活動をみなさまから見えやすくすることで、今後の当社グループの環境負荷低減を含むCSR活動推進のさらなる原動力にしたいと考えます。

働きやすい環境づくりを目指して

本年2月に、当社グループに関わるすべてのステークホルダーが順守すべき人権への基本的な考え方を明示した「ニチアスグループ人権方針」を制定いたしました。これは以前から当社グループ運営の根底にあった考え方を明文化したのですが、今後はこの方針に則り企業活動を行ってまいります。

当社グループでは2015年から、グループ全体の改善活動であるNKK(ニチアス改善活動)に取り組んでいます。この活動で得られた成果を業務改善や働き方改革につなげ、当社グループがかねてから掲げてきた「働きやすい明るい会社」「『ありがとう』があふれる会社」を達成し、ニチアス理念の実現に向けて歩んでまいります。



NKK広報用ポスター

2019年度のCSR活動の成果をステークホルダーのみみなさまにご報告いたします。本レポートをご一読いただき、当社グループの理解の一助となれば幸いです。

「断つ・保つ[®]」の6つの技術で 環境など社会的課題の解決に貢献

1 半導体製造工場

低濃度有機溶剤濃縮装置
ソルベントクリーン[®]

半導体製造工程から排出される空気をクリーンにするために、低濃度VOC含有ガスを濃縮する装置です。




高性能ゴム製シール材
ブレイザー[®] ネクスト

クリーンな環境が求められる半導体製造工程の機器などに使用されるゴム製シール材です。





15 住宅

住宅用断熱材
ホームマット[®]

住宅の天井・壁・屋根に使用される断熱材です。防音機能にも優れています。





14 物流倉庫

巻付け耐火被覆材
マキベエ[®] **P8参照**

鉄骨構造ビルの梁や柱に使用される耐火被覆材です。施工の省人化にも貢献します。




13 ビル

建築用防音・断熱材
MGビルバック[®]

ビルの天井、間仕切壁に使用される防音・断熱材です。オフィスの省エネ・防音に貢献します。





2 ロケット

ふっ素樹脂製ホース
ナフロン[®] PFA耐圧ホース

ロケット発射機の機器、設備制御用ラインに使用されるふっ素樹脂製のホースです。



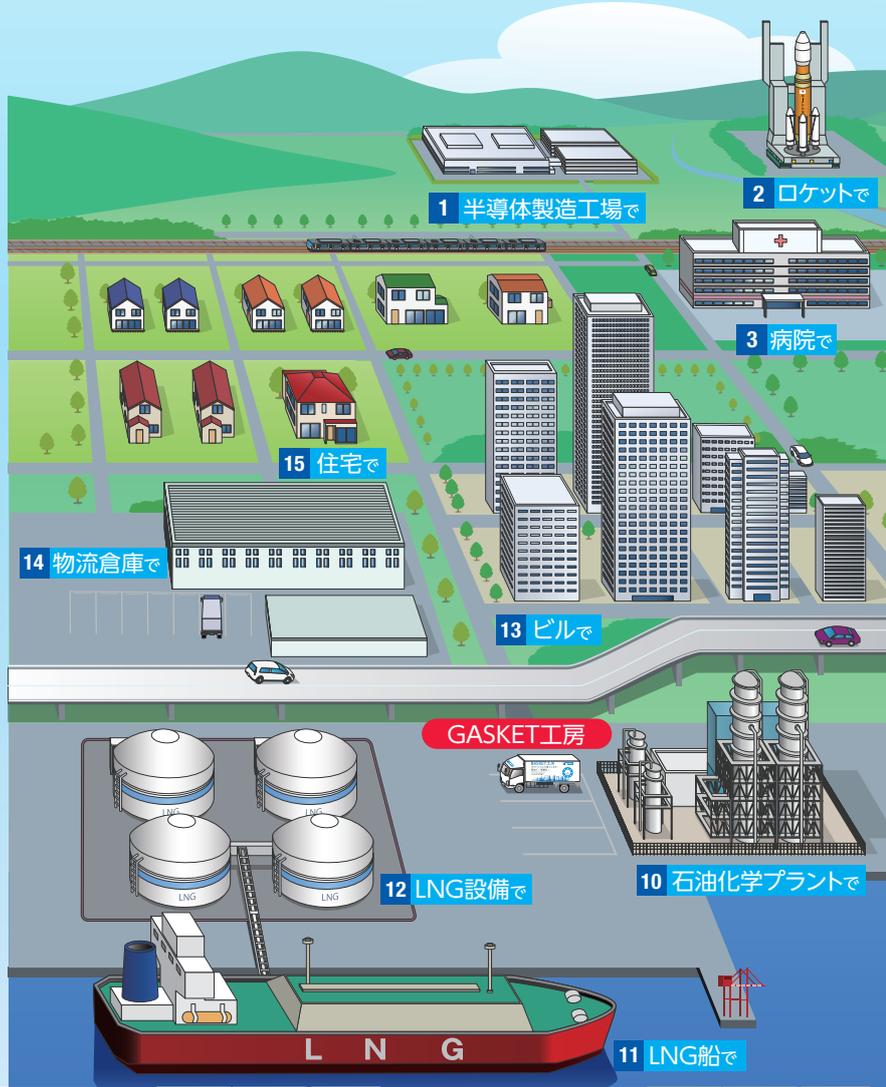


3 病院

医療用チューブ
ナフロン[®] マルチルーメンチューブ

内視鏡などクリーンが求められる医療機器の部品として使用されるわずか直径1mm程度のふっ素樹脂製のチューブです。





12 LNG設備

極低温用保温材
フォームナート[®] TN

-162℃の低温流体が流れる配管に使用されるウレタンフォーム保温材です。




11 LNG船

保冷工事

-162℃の低温流体が流れるLNG船の配管やタンクへの保温材の取り付け工事です。




「断つ・保つ」の6つの技術



シール技術

配管の継ぎ目から流体が漏れることを防ぎ、設備の安全な稼働を支えています。



断熱技術

加熱(または冷却)されたものの温度を保ったり、外部からの熱を断つことで省エネルギーに貢献し、CO₂排出量の削減にも役立っています。



防音技術

工場からの騒音や自動車のブレーキからの振動音を低減することで、静かで快適な生活の実現に寄与しています。



耐火技術

工業炉や焼却炉、または火災で建物が火にさらされても耐えるための材料を提供し、安全を守ります。



耐食技術

化学薬品による腐食や汚染を防ぎます。例えば、洗浄や除菌の管理が厳しい半導体や食品製造の工程で活躍しています。



クリーン技術

半導体製造などわずかな不純物も許されない工程で、クリーンを保っています。クリーンを極限まで追究します。

4 原子力発電所で

原子力発電設備用保温材

金属保温材

原子炉の圧力容器や配管などに使用されるほか、一切出ないすべて金属製の保温材です。



5 食品製造プラントで

食品向けシール材

サニクリーン® ガasket

食品製造工程の製品充填ラインなどで使用されるに、汚れが付かないシール材です。



6 冷蔵倉庫で

防熱工事

-20℃の大型冷蔵倉庫などへの保温・保冷材の施工工事です。



7 製鉄プラントで

高温用断熱材

ファインフレックスBIO® ブランケット

ボイラーの天井や炉壁などに使用される断熱材です。省エネルギーに貢献します。



8 自動車で

自動車部品用シール材

メタコート®

エンジンのシリンダーヘッドなどに使用されるシール材です。



超軽量防音カバー

エアトーン®

自動車のエンジンやトランスミッションなどに使用される防音カバーです。



10 石油化学プラントで

保温機能回復工法

増し保温® 工法

劣化した保温材を取り外すことなく、新しい保温材を重ね巻かして保温性能を回復させる工法です。



GASKET 工房®

お客様の工場内に常駐し、その場でガスケットの加工が可能なトラックです。スピーディーな対応が特長です。



9 火力発電所で

配管用シール材

グラシール® ボルテックス® ガasket

ボイラーなどの機器や配管で使用されるシール部がうず巻き形状のシール材です。



SDGsの達成に役立つニチアス製品

お客さまが当社製品やサービスをご使用、ご利用いただくことが、SDGs(持続可能な開発目標)※達成の手助けとなります。以下では、その事例をいくつか紹介いたします。

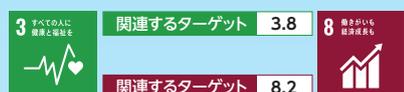
※SDGsとは国連サミットで決定した持続可能な開発目標で、17の目標と169のターゲットから構成されます。

ナフロン® マルチルーメンチューブ

内視鏡などクリーンが求められる医療機器の部品として使用され、最新の医療に貢献します。



関連する主なSDGsの目標とターゲット



マキベエ® P8 特集

従来の吹付け材よりも作業性よく施工できる耐火被覆材で、火災時に建築物を火から守ります。



関連する主なSDGsの目標とターゲット

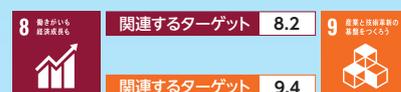


ガasket工房™

お客さまの現場に常駐し、ガスケットを加工・即納できるサービスカーで、輸送による環境負荷をなくします。



関連する主なSDGsの目標とターゲット



ニチアス環境関連製品

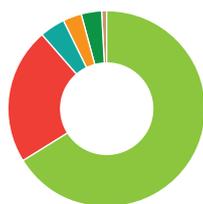
当社では社会やお客さまの省エネルギーや騒音防止など環境負荷低減に役立つ製品やサービスを「ニチアス環境関連製品」として定義しました。今後も社会やお客さまの環境負荷低減に役立つ製品やサービスを提供していきます。

2016～2019年度のニチアス環境関連製品の売上高(単体)と比率

■ ニチアス環境関連製品の売上高(単体) ● ニチアス環境関連製品の割合



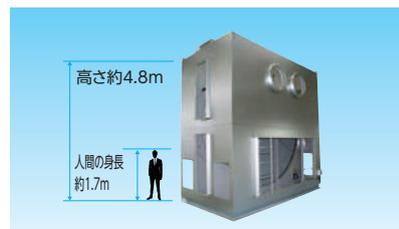
2019年度ニチアス環境関連製品の項目別の売上高(単体)における比率



省エネルギー	66.2%
騒音低減	22.4%
振動低減	4.1%
大気汚染防止	3.2%
悪臭防止	3.2%
廃棄物削減	0.8%

ソルベントクリーン®

VOC(揮発性有機化合物)などの有害物質を濃縮処理する装置です。大気汚染や悪臭を防止し、人の健康を守ります。



関連する主なSDGsの目標とターゲット



ホームマット®

住宅用の断熱材で、冷暖房の省エネルギーに貢献したり、騒音を低減することで快適な暮らしに貢献します。



関連する主なSDGsの目標とターゲット

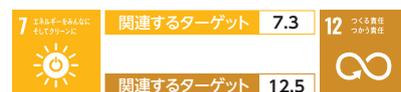


エネサーモ®

脱着可能で繰り返し使用できる断熱材で、省エネルギーと廃棄物削減に貢献します。



関連する主なSDGsの目標とターゲット



建築現場の社会課題解決に貢献する 巻付け耐火被覆材「マキベエ®」

高層ビルや大型倉庫の建設といった近年の旺盛な建築工事の需要にともない、建築物の鉄骨を火災発生時の熱から守るために、耐火性能のある材料を被覆する耐火被覆工事の重要性もますます高まっています。

その一方建築現場では、3K労働(きつい、汚い、危険)といわれる労働環境であること、それによる慢性的な人手不足が問題となっています。耐火被覆工事においても同様の問題を抱えています。

ニチアスグループが提供する巻付け耐火被覆材「マキベエ」を使用した巻付け工法は、この問題解決に役立つ画期的な工法です。

マキベエ®とは

マキベエはニチアスが開発したフェルト状に成形した耐熱性に優れたロックウール材料です。鉄骨に専用固定ピンで溶接して取り付ける当社独自の工法で「巻付け工法」とも呼ばれています。



マキベエ



固定ピン



巻付け工法

耐火被覆工事の抱える問題

耐火被覆工事は、耐熱性のある材料を鉄骨に吹き付ける「吹付け工法」が主流でした。この工法は、3K労働のうち特に「きつい」、「汚い」に該当する作業です。こういった劣悪な労働環境は、作業員の人手不足を引き起こしています。

1. 劣悪な労働環境



吹付け工法(従来工法)のようす

2. 人手不足

劣悪な労働環境や作業員の高齢化により人手不足が引き起こされています。



作業員が少ない!
成り手がいない!

マキベエ®が提供する課題解決策

マキベエの施工は、労働環境改善と人手不足解消の2つの課題解決に貢献します。

1. 労働環境改善

マキベエの施工は吹付け工法と違い粉じんがほとんど発生しません。さらに特殊な防護服の着用が不要で一般の作業着での作業が可能です。



巻付け工法のようす

2. 人手不足の解消

マキベエの施工は吹付け工法のような特殊な技能が不要です。そのため、専門の作業員を早期に育成しやすく、定着率も高いです。



人手不足解消!

マキベエ®がもたらすメリット

マキベエは前項の社会課題解決に貢献するだけでなく、以下のメリットがあります。

1 安定した品質

耐火被覆材の厚みや密度といった施工品質の確保を作業者の技量に大きく依存している吹付け工法と違い、マキベエは工場にて品質管理された材料を鉄骨に取り付けていく工法のため、厚みや密度といった耐火性能を確保するための品質管理面でも安定した工法です。



2 工期の短縮

建築工事では、さまざまな作業が隣り合って工程を進めています。

しかしながら吹付け工法では大量の粉じんが発生するため、施工場所を吹付け工法のみで専有してしまいます。

マキベエを使用した巻付け工法では、他職種と並行した作業が可能になり、お客さまの全体工期の短縮に貢献します。



3 費用削減

マキベエの施工は、吹付け工法で必要な粉じんの飛散を防止するためのシート養生や使用する水が不要で消費電力が少ないです。さらに施工時の材料ロスが少ないので、産業廃棄物処理費の削減にも効果があり、お客さまにとってコストメリットが出る工法です。



お客さまINTERVIEW

これからの建築物にあった工法として期待



株式会社竹中工務店 東京本店
八重洲2丁目北地区市街地
再開発事業作業所 総括作業所長
大内 裕 様

マキベエは施工する材料の厚みが一定なため耐火性能確保の品質管理が容易です。加えて吹付け工法に比べて作業自体の特殊性が高くないため、人員の確保もしやすいです。もちろん、マキベエの施工にも品質管理の面や露出部外観をきれいに見せるといった技術が求められますので、施工はこうしたプライドを持った作業員の方をお願いしたいと思っています。

現在の厳しい受注環境の中で、見た目のコストが安い吹付け工法で原価設定される傾向にあります。しかし、建築の現場では原価だけでなく総合的な判断が必要です。事前のコストに見えない実作業の場面でマキベエはメリットを発揮しており、これからの建築物に貢献する存在だと考えます。

より幅広いニーズにお応えするために

2019年11月、より幅広いニーズにお応えするために、新製品「マキベエ® 高密度仕様」を発売しました。

この製品は従来製品と同じ性能を持ちながらも製品厚さを薄くした仕様となっています。従来仕様よりも密度は20%高くなりますが、それ以上に耐火被覆材の厚さを薄くすることで、平米当たりの重量を25%軽量化した製品です。

厚みが薄くなったことで、事務所ビルなどの梁に施工する際、天井高さを高く設定でき、室内空間をより広げることができます。また、重量が軽くなったことで、運搬や巻付け作業時の作業員の負担をより軽減することができます。

マキベエ高密度仕様 施工例
(大梁に施工された濃色が高密度仕様、
小梁に施工された淡色が従来仕様)



さらなる普及で社会課題解決を支えます

マキベエはこれまで述べてきたような取り組みをご評価いただき、2010年度から2019年度までの10年間で出荷量が2.7倍になりました。成田国際空港のLCC専用ターミナルに採用されるなど、多くの施設やオフィスビルでご採用いただいています。また、日経BP社発行の建築総合情報誌「日経アーキテクチュア」の「採用したい建材・設備メーカーランキング」の耐火被覆材部門において、当社が15年連続で第1位に選ばれています。

さらに、マキベエをご採用いただければ、将来のビル解体の時に、鉄骨に巻き付けたマキベエは簡単に外せますので鉄骨のリサイクルが容易です。その点でもメリットがあります。また、海外ではシンガポールでのビルや病院、データセンターなどでの採用も増えています。建築基準が日本とは異なる海外ではありますが、今後海外での普及にも力を入れていきます。

マキベエという独自のツールで現場の環境や工程を改善していくことで、今後もニチアスグループは建築現場の社会課題解決に貢献していきます。

マキベエの出荷量(トン)



成田国際空港第3旅客ターミナルビル(LCC専用ターミナル)に採用されたマキベエ

お客さまINTERVIEW

今後のさらなる展開を期待しています。



清水建設株式会社
技術研究所 建設基盤技術センター
防耐火グループ長
森田 武 様

決められた厚さで製造された製品が現場に納入されるので、施工の際に細かな厚さ管理が不要なこと、養生期間が不要なことなども、マキベエの強みだと考えています。多様な人材が活躍できる可能性もあると思います。養生不要のため、将来大規模改修が予想される建物にマキベエを採用することにより、耐火被覆の補修がしやすくなる点も挙げられます。

また、貴社と開発させていただいた「マキベエ高密度仕様」によって、最も汎用性のある2時間耐火の被覆厚さを薄くできたことは大きな成果だと考えています。天井高さを高くできる、あるいは天井裏の有効スペースが広がる、巻付け被覆の出隅部がシャープに見えることによる見栄えの良さなど、多くのメリットが得られており、今後のさらなる展開を期待しています。

CSRの活動目標と実績

ニチアスグループは、お客さま、お取引先、株主・投資家、従業員とのつながりはもとより、社会全般および拠点のある地域社会とのつながりを大切にし、より良い関係の構築を通して社会的課題の解決に貢献します。

6つの軸	活動項目	目標／あるべき姿	2019年度計画
1 コーポレートガバナンス	内部統制評価	当社グループの内部統制が有効に機能し、リスクが低減され、健全な経営活動が推進されている	● 本体: 14拠点、子会社: 国内11拠点、海外10拠点を対象に業務監査を実施
	コンプライアンス	当社「コンプライアンス綱領」に則り、法令・定款の順守はもとより、社会の良識、常識を踏まえたコンプライアンス活動に取り組んでいる	● コンプライアンス活動が形骸化している支部委員会への運営支援、啓発教育の実施 ● 法令やコンプライアンス関連の勉強会を実施 ● コンプライアンス内部講師のフォローアップ研修および新規内部講師の育成研修の実施 ● 支部委員会、職場単位での啓発教育の実施 ● 「コンプライアンスポータルサイト」の充実化継続 ● コンプライアンス内部講師による各職場でのハラスメント防止研修の実施
	知的財産の保護	競争優位性の確保と公正な競争秩序を維持するために、知的財産の保護・尊重をグループ一丸となって推進している	● 知的財産権保護知識の浸透と階層別研修の継続
2 お客さまとのつながり	環境関連製品の提供	社会やお客さまのところで直接環境負荷低減に役立つ製品・サービスを提供する	—
	製品の安定供給	災害など不測の事態が発生しても、供給責任を果たせる体制が構築できている	● 事業活動を行っていくためのBCP活動継続 ● 火災、爆発、自然災害を想定した製造拠点のリスク診断の継続実施(2拠点/年)
	品質保証体制	安全で信頼性の高い製品・サービスを提供している	● 売上高1億円当たりのクレーム発生 0.21件以下 ● 品質教育による啓発活動の実施「品質アカデミー」[QC検定]
3 株主・お取引先とのつながり	株主・投資家への情報開示	株主・投資家の皆さまに公平、適切な情報開示ができています	● 適切な情報開示 ● 個別ミーティング 140件以上 ● 個人投資家向け会社説明会開催 ● 工場見学実施 ● 海外IRの実施
	公正な競争・取引	公正かつ自由な競争・取引が行われる環境下で事業活動を継続している 独禁法や下請法の趣旨や内容を理解し、順守している	● 独禁法、下請法に関する各種研修会の実施
	取引に関する方針	継続した事業活動を行うために、原材料のBCP対策ができています	● 主要仕入先に対して、CSRアンケートの実施
4 従業員とのつながり	ダイバーシティ	多様な人材が活躍できる環境づくりに取り組んでいる	● 女性総合職の積極採用: 採用率 20%以上
	ワークライフバランスの推進	仕事と家庭など仕事以外の生活との調和を保つ環境で働いている	● 有給休暇の取得推進: 計画取得の推進および有給休暇取得率 70%以上 ● 在宅勤務制度の施行 ● 育児・介護休業を取得しやすい環境の整備
	従業員の安全と健康の推進	従業員の健康を維持し、働きやすい明るい職場づくりを推進している 従業員の安全を守るために、災害ゼロを推進している	● 従業員の健康推進: 健康診断二次検査受診率 100% ● メンタルヘルス: ストレスチェックと集団分析の継続実施 ● 重大災害(休業10日以上)の災害) 0件 ● KY・指差し呼称徹底活動の推進 ● 指差し呼称実施者への評価方法の検討 ● 全事業場KY指導者の育成とKY活動の再スタート ● 安全作業指針(4種類)制定
	従業員、家族とのコミュニケーション	従業員と家族にとって当社がより身近な存在になれるような活動を実施している	海外駐在員・海外出張者 ● 安否確認ツール「ハザードバスター」 定期的訓練の継続実施 国内従業員 ● 各拠点の避難訓練の継続実施 ● 安否確認システムの実践的訓練の実施 ● 災害時の通信手段の再整備 ● 海外出張者の位置情報把握 ● こども参観日: 本社、地域事業所での開催継続 ● 社内報「とんぼのわ」の発行継続 ● CSReラーニングの実施
5 社会とのつながり	地域貢献活動	当社グループそれぞれの事業所が地域に共存する存在として、地域に貢献する活動を行っている	● 各拠点によるCSR活動の充実
	社会貢献活動	学術研究への貢献や災害支援など、広く社会に貢献する	● 学術研究助成の継続 ● 寄付を通じた地域への貢献 ● 災害支援の継続 ● フードバンクへの備蓄食料の提供
6 環境への取り組み			

○ 目標達成 △ 目標に対し50%以上達成 × 目標に対し50%未満達成 — 評価対象外

2019年度報告	自己評価	2020年度計画
<ul style="list-style-type: none"> ● 本体: 13拠点、子会社: 国内9拠点、海外10拠点を対象に実施。いずれも問題がなく、内部統制が有効であることを確認した(新型コロナウイルスの影響のため、本体1拠点、国内子会社2拠点については2020年度に延期) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体: 15拠点、子会社: 国内13拠点、海外11拠点を対象に業務監査を実施
<p>コンプライアンスの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本部委員による41支部委員会への訪問 ● 支部委員会事務局連絡会6分科会の開催 各3回 ● 外部講師によるコンプライアンス研修(東京、大阪、袋井工場) ● 内部講師によるケーススタディを通じたハラスメント防止研修を実施 ● 「コンプライアンスポータルサイト」の充実化を実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 「コンプライアンスポータルサイト」の充実化継続 ● コンプライアンス内部講師による各職場でのハラスメント防止研修の実施 ● 海外子会社のコンプライアンス活動支援
<ul style="list-style-type: none"> ● 3月に不正競争防止法 eラーニングを実施 ● 一部の階層別研修については新型コロナウイルス対策のため中止。実施時期は再検討 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 知的財産について引き続き、従業員に教育を行う ・不正競争防止法 ・ブランド関係 ・著作権
<ul style="list-style-type: none"> ● ニチアス環境関連製品売上金額(単体) 2019年度 635億円 2018年度 624億円 2017年度 603億円 	—	—
<ul style="list-style-type: none"> ● ニチアスセラテック: 中野工場の竣工によるBCPの強化 ● 福島ニチアス: 第7工場の竣工によるBCPの強化 ● リスク診断 ニチアスセラテック: 1/22実施 福島ニチアス: 2/27実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業活動を行っていくためのBCP活動継続 ● 火災、爆発、自然災害を想定した製造拠点のリスク診断の継続実施(2拠点/年)
<ul style="list-style-type: none"> ● 売上高1億円当たりのクレーム発生 0.18件 ● 「品質アカデミー」受講者数 334名 ● 「QC検定」合格者数 19名 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上高1億円当たりのクレーム発生 0.21件以下
<ul style="list-style-type: none"> ● 11月に決算説明会を開催 ● 個別ミーティング131件の開催 ● 個人投資家向け会社説明会開催 ● 工場見学会実施 ● 海外IRの実施(イギリス、シンガポール) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な情報開示 ● 個別ミーティング 140件以上 ● 個人投資家向け会社説明会開催 ● 工場見学会実施 ● 海外IRの実施
<ul style="list-style-type: none"> ● 本社、支社、工場、研究所および子会社に向けて独禁法および下請法の研修会を、計10回開催 ● eラーニング実施 ● 下請業者との取引実態調査において発覚した問題点の改善および再発防止を実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 独禁法、下請法に関する各種研修会の実施 ● 子会社の下請業者との取引実態の把握と改善
<ul style="list-style-type: none"> ● CSR調達アンケートを実施(調達先30社) いずれの取引先にも問題がないことを確認 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート依頼先の範囲拡大(30社→50社)
<ul style="list-style-type: none"> ● 女性総合職の採用率 2020年入社 32% 2019年入社 21% 2018年入社 16% 2017年入社 23% 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性総合職の積極採用: 採用率 20%以上
<p>ニチアス本体</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全従業員の5日以上の有給取得を達成 ● 有給休暇取得率 2019年度 61.2% 2018年度 53.1% 2017年度 48.6% 2016年度 44.4% <p>子会社(21社の平均)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有給休暇取得率 2019年度 64% 2018年度 58% ● 2020年1月運用開始した 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 有給休暇の取得推進 ・計画取得の推進 12月末までに5日以上取得 ・有給休暇取得率 70%以上 ● 制度運用後の問題点の把握と対策の実施
<p>ニチアス本体</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 育児休業取得者数 2019年度: 14名(内訳: 男性3名、女性11名) ● 介護休業取得者数 2019年度: 0名 <p>子会社(21社の合計)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 育児休業取得者数 2019年度: 10名(内訳: 男性3名、女性7名) ● 介護休業取得者数 2019年度: 1名(内訳: 男性1名) ● 2019年度 健康診断二次検査受診率 98.8% ● ストレスチェックと集団分析の実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 育児・介護休業を取得しやすい環境の整備 ● 従業員の健康増進: 健康診断二次検査受診率 100% ● メンタルヘルス: ストレスチェックと集団分析の継続実施
<ul style="list-style-type: none"> ● 重大災害4件発生 ● KY-指差し呼称徹底活動の推進 ・全事業場KYT再開、定常作業での指差し呼称を確認 ・KY指導も含めた各事業場の安全キーマン育成のため、中防災による集合教育を企画・実施 ● 安全作業指針(1種類) 制定・安全設計標準見直し 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 重大災害(休業10日以上の災害) 0件 ● KY-指差し呼称徹底活動の推進 ・一人KYの推進 ・安全キーマン育成教育の継続実施 ● 安全作業指針・安全設計標準・教育動画の整備 ● 未熟練者の危険感受性向上のため、指導方法・内容の改善
<p>海外駐在員・海外出張者</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 導入完了 <p>国内従業員</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 訓練完了 	○	<p>海外駐在員・海外出張者</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新規安全サポートサービスの運用開始 <p>国内従業員</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安否確認システムの定期訓練: 回答率100% ● 地域単位での運用定着化(拠点単位で発信、情報収集)
<ul style="list-style-type: none"> ● こども参観日: 本社、鶴見研究所、九州支社の3拠点で開催 ● 社内報「とんぼのわ」年4回の発行 ● CSReラーニングの実施: 当社グループ従業員を対象に4,472名受講 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● こども参観日: 本社、地域事業所での開催継続 ● 社内報「とんぼのわ」の発行継続 ● CSReラーニングの実施継続
<ul style="list-style-type: none"> ● 国内外の当社グループ88事業所による、事業所周辺の清掃や自治体活動の支援をはじめとする計500件を超えるCSR活動 ● 約800万円の寄付 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 各拠点によるCSR活動の充実 ● 学術研究助成の継続 ● 寄付を通じた地域への貢献
<ul style="list-style-type: none"> ● 台風19号被害にともなう義援金として日本赤十字社に対して100万円を寄付 ● アルファ米740食、飲料水660リットルを寄付 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害支援の継続 ● フードバンクへの備蓄食料の提供

環境への取り組みの活動項目・目標・実績はP22に掲載しています

コーポレートガバナンス

ニチアスグループは、経営の透明性、公正性、効率性を高め、企業価値を長期にわたり安定的に向上させることが経営の最重要課題と考えています。



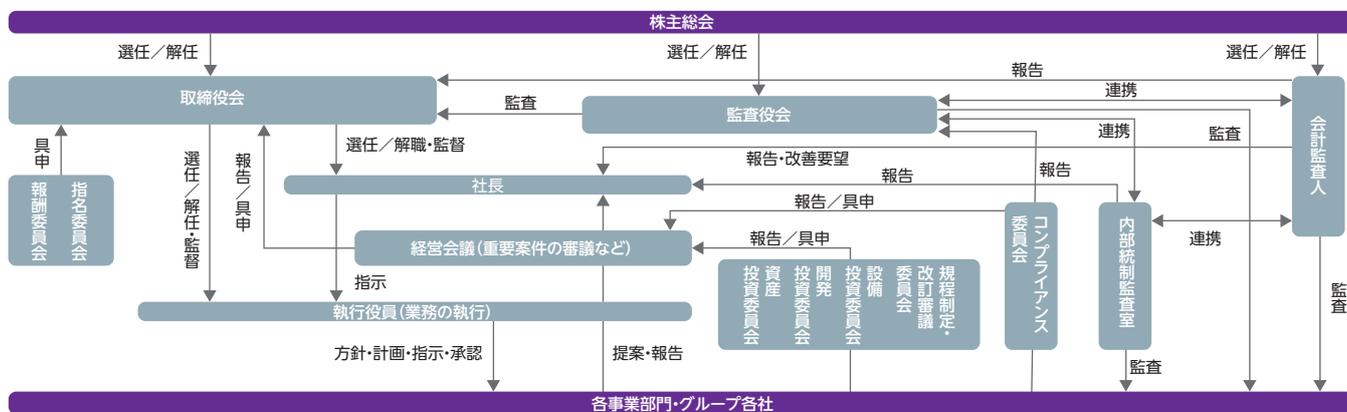
コーポレートガバナンスの強化

当社の取締役会は、当社事業に精通した8名の取締役と、独立した立場から自由に提言できる3名の社外取締役で構成されており、毎月定例日に1回、必要な場合は臨時に開催し、経営上の重要な意思決定を行っています。このほか、稟議案件の承認、全社的な業務運営や個別の重要案件を審議する経営会議

を原則毎週開催しています。

また、当社の監査役会は経営監視機能の客観性と中立性を確保するため、専門分野をもつ社外監査役と当社の業務経験がある常勤監査役によって構成され、経営に対して積極的な意見表明を行っています。

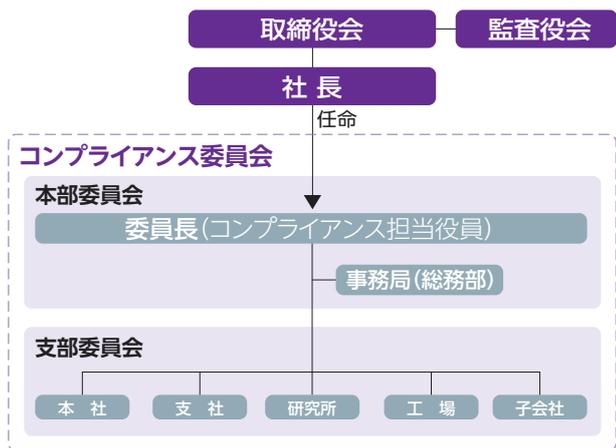
■ コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

当社グループのコンプライアンス活動の基盤は、毎月の本部委員会と3カ月に一度の支部委員会にあります。第三者機関による「総合通報窓口」を開設し、より透明性の高い体制を実現しています。そのほか、全従業員へのアンケートの実施や内部講師による研修、啓発ポスターの掲示などを行い、意識向上と違反の防止に努めています。また、社会状況の変化や法改正を踏まえ、4年ぶりにコンプライアンス綱領(第8版)を改訂するなど、行動規範の見直しを行い、基本姿勢を示しています。

■ コンプライアンス体制図



内部統制評価

当社グループ全体の企業価値の向上を図るため、内部統制にかかる体制を整備し、その評価の仕組みを構築しています。公正性・独立性を明確にするため、社長直轄の内部統制監査室を設置し、当社グループの内部監査を計画的に実施しています。2019年度は、ニチアス本体13拠点(営業11、工場2)、グループ会社19拠点(国内9、海外10)を対象に内部監査を行いました。いずれの拠点も、管理状況は良好であることを確認しました。また、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効と判断する「内部統制報告書」を作成、提出しています。

知的財産の保護

当社グループでは、知的財産(知財)を重要なものとして位置付け、新たに創出した技術については、権利取得を積極的に推進しています。また、新製品発売時には他者の知財権を尊重し、権利侵害がないよう適宜調査・確認を実施し、適切に対応しています。また、自社ブランドの権利化を各国で進めるとともに、模倣品調査を適宜行い、対処することで自社ブランド価値の維持・向上および利用者の安全確保に努めています。

株主・お取引先とのつながり

ニチアスグループは、透明性、公正性、効率性を重視した経営を行うとともに、財務情報については、迅速かつ適切に開示しています。また、お取引先に対しては、公平性を重視し、法令を順守した公正な取引を行っています。



株主・投資家への情報開示

IR活動

当社グループでは、株主・投資家の皆さまからのご意見を真摯に受け止め、経営に活かしていくことが重要との認識から、担当部署としてIRチームを設置し、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションの充実に努めています。

例えば、アナリスト・機関投資家向け決算説明会や工場見学会、個人投資家向け会社説明会を開催しているほか、日常的なミーティングや証券会社主催のカンファレンスへの参加なども行っており、2019年度は延べ131件のミーティングを行いました。こうしたアナリスト・機関投資家との対話を通じて得られたご意見については、IR担当より定期的に社内へフィードバックされ、経営・事業活動の改善に役立てています。引き続き、国内外の株主・投資家とのコミュニケーションを強化し、幅広い株主層の形成に努めていきます。



海外投資家とのミーティングに臨む当社役員

アナリスト・機関投資家向け決算説明会の開催

アナリスト・機関投資家との適時・適切なコミュニケーションを図るため、期末決算および第2四半期決算の発表時に決算説明会を開催しています。決算説明会では経営方針、経営戦略、事業概要、財務情報を説明するとともに、経営幹部と投資家との対話にも積極的に取り組んでいます。

2019年度は、第2四半期決算説明会で計67名に出席いただき、建材事業の説明や質疑応答を実施しました（期末決算説明会は新型コロナウイルスの影響により中止）。

今後も財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスなどの非財務情報に関する対話についても積極的に取り組んでいきます。



決算説明会

お取引先とのつながり

取引に関する方針

当社グループは、お客さまへの供給責任を果たすことを重要な企業評価基準ととらえ、起こり得る大規模自然災害が当社の生産へ与える影響を最小限にとどめるための対策の一つとして、原材料のBCP対策を進めています。

具体的には、各サプライチェーンのBCP対策状況を把握し、必要に応じて改善を求めています。なお、万一サプライチェーンだけの対策が難しいと判断したときは、当社の原材料・半製品・完成品の在庫を積み増しすることでBCP対策を進めています。

公正な競争・取引

当社グループは、CSR活動の一環として、独占禁止法および下請法の研修に力を入れています。毎年、新入社員や新任管理職を対象とした研修会などに、独占禁止法・下請法順守に関するプログラムを盛り込んで実施しています。

2019年度は、本社、支社、工場、研究所並びに子会社の管理者に対して、独占禁止法および下請法に関する研修会を実施し、法の周知と法令の順守を確認しました。また、当社の役員および全従業員を対象に独占禁止法および下請法に関するeラーニングによる研修を行いました。さらに、当社における下請業者との取引実態を調査のうえ改善を行いました。これらの活動を通じ、当社グループは法令順守の徹底を図っています。

CSR調達アンケートの実施

当社では製品のサプライチェーン全体での取り組み増進を目的に、お取引先に「CSR調達アンケート」という形で活動状況の調査を実施しています。

2019年度は、30社の取引先を対象に調査を実施し、いずれの取引先も活動状況は良好であることを確認しました。

お客さまとのつながり

ニチアスグループは、お客さまにとって安全・安心な製品の提供、および、お客さまに役立つ製品・サービスの提供を推進しています。



安全・安心な製品の提供

■ お客さまに信頼される品質への取り組み

お客さまに安心してご使用いただける製品を継続的に提供するため、製品の企画・設計から廃棄まで、それぞれのステージに応じて審査する仕組みを設けています。

「開発」「設計」「技術」「製造」「販売」「品証」「環境」の各部門がそれぞれの専門的見地から連携し、製品の品質と安全性や信頼性、生産プロセスの妥当性を厳しく審査しています。

■ 品質マネジメントシステム

当社グループでは、120余年の歴史の中で培った独自のシステムとISO9001を融合した、固有の品質マネジメントシステムを構築し、幅広い事業と多様な製品群の品質保証活動を推進しています。各製造事業場ではISO9001認証の取得を推進し、現在では国内外の工場や子会社など多数の事業場にて認証を取得しています。また公的認定製品は専門の組織を置き、その適合性を管理しています。

製品の安定供給

当社グループは幅広い産業になくてはならない製品・サービスを提供しています。したがって製品供給が滞ることなく、継続的に事業活動を行っていくためのBCP対策は極めて重要な経営課題です。

災害発生時などで製品供給が途絶えた場合のお客さまへの影響度合い、市場での重要性、他社製品も含んだ代替品への切り換えの可能性なども勘案し、製品供給の確保に努めています。また、企業活動を支える従業員の安全確保も重要な課題です。この2点をBCP対策の基本課題として、各種対策に取り

組んでいます。2019年度に新たに竣工したニチアスセラテック中野第1工場、福島ニチアス第7工場は、生産能力の増強だけでなく最新の耐震補強など各種BCPの対策を行いました。ここ数年、巨大地震・台風・大雨による被害が甚大となっています。特に、冠水による電源喪失は製造事業所として致命的なため、当社グループでは受電設備の高所化を進めています。2019年度は鶴見工場の地上面に設置されていた変電所を建屋屋上へと移設しました。

■ BCP対策を強化した工場



ニチアスセラテック中野第1工場



福島ニチアス第7工場

■ 高所化した鶴見工場の受電設備



対策前



対策後

大型台風による当社被災拠点へのお客さまからのご支援

COLUMN

2019年9月に発生した台風15号、10月に発生した台風19号は、東日本を中心に甚大な被害をもたらしました。このような中で、特に被害の大きかった当社福島営業所、当社子会社である(株)福島ニチアス、(株)君津ロックウール、新日本熱学(株)君津事業所へ、当社のお客さま、お取引先さまをはじめとする多くの方から、生活必需品などのご支援をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



提供いただいた支援物資と搬入のようす



お客様のニーズに合わせた製品・サービスの提供

■ 広域認定制度を活用した

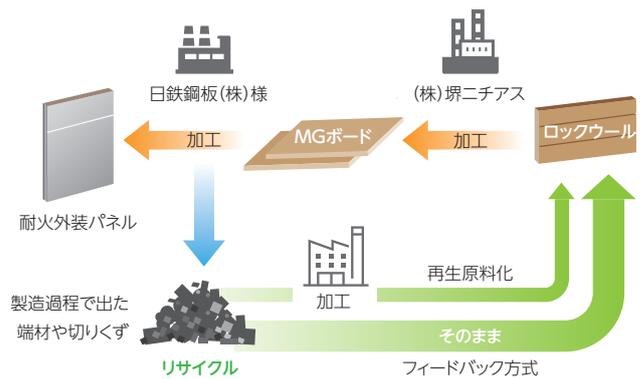
ロックウールの広域再生事業

当社グループでは、ロックウールに関わるすべての事業場で環境大臣広域的処理認定業者の認定を取得しています。同制度は、産業廃棄物となった自社製品を取引先から回収してリサイクルすることを目的とした循環型社会を後押しするものです。

当社グループの(株)堺ニチアスで製造したロックウールは、日鉄鋼板(株)様の耐火外装パネルの芯材として採用されています。日鉄鋼板(株)様の製造工程で、ロックウールを加工する際に発生する端材や切りくずを回収し、(株)堺ニチアスにもどすシステムをお客さまと連携し構築しています。

今後も当社グループは製造時の環境負荷低減を進めるとともに、お客さまとの連携を深め、循環型社会の実現に貢献します。

■ ロックウールの広域再生の流れ



■ GASKET工房™

石油精製・石油化学プラントにおける定期メンテナンスでは、当社のガスケットが緊急で必要になることがあります。当社の「GASKET工房」はお客さまのプラント構内に常駐し、その場でシートガスケットの加工が可能な、移動式サービスカーです。

2014年の稼働開始以降、ご要望は年々増えており、2019年からは2台体制とすることで、より多くのお客さまからのご要望にお応えすることができるようになりました。北は北海道から、南は沖縄まで、全国各地のプラントメンテナンスを支えています。



GASKET工房

■ ガスケットLab™

石油精製・石油化学、鉄鋼、電力など、多くのプラントは設備の老朽化が進み、事故や故障の発生リスクが高まっています。当社の「ガスケットLab」は、予防保全によりプラントの安全操業を支援するエンジニアリングサービスであり、フランジ締結体のシール技術を強力にサポートします。高い評価技術によりトラブルの原因を知り、シミュレーション技術と豊富な実験結果をもとに対策を立て、適切な運用をご提案します。また、フランジ締結に関する知識を実技講習と合わせて原理から学べる機会を提供し、施工者の技能向上に貢献します。2019年度は出張講習会も合わせ、68件の講習会を開催しました。



ガスケットLab

従業員とのつながり

ニチアスグループは、安心して働くことのできる職場づくりに取り組んでいます。また、ダイバーシティの推進やワークライフバランスを重視し、仕事と家庭を両立してキャリアを積める各種制度の充実を図っています。



従業員の安全と健康の推進

■ 安全・衛生の取り組み

当社グループは安全衛生基本方針

- トップの強いリーダーシップと従業員の参画によって、積極的な安全衛生活動を推進し、「安全最優先」の意識の定着を図る。
- 快適な職場環境を作り、一人ひとりの健康を確保する。に基づき、グループ一体となって安全衛生活動を推進し、心身ともに働きやすい職場づくりに取り組んでいます。また、設備の安全化対策など作業環境の整備、リスクアセスメントによるリスク低減と従業員の安全確保を推進しています。2019年度は安全衛生スローガン「指差し呼称で 不安全行動防止 ヨシ!」を掲げ、不安全な状態と不安全な行動に対する意識を高めてきました。KY《危険予知》活動により危険感受性を高め、一人ひとりが安心して働ける職場を築いています。

■ メンタルヘルスケア

当社では精神科医と産業医契約を交わし、仕事起因、職場起因に限らず悩みや心配ごとを抱えた従業員を支援するとともに、必要に応じてその上司の支援も行っています。2019年度はおよそ50回、延べ260名との面談を行いました。また、新入社員や新任管理職などに対する社内集合研修では、必ずメンタルヘルス教育の時間を設けています。なお2019年度のストレスチェックは、当社グループ25社、およそ5,200名を対象に実施しました。集団分析も行い、より働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

VOICE



「ゼロ災害」継続に向けた安全衛生活動

大田化成(株) 総務課

成瀬 正一

大田化成(株)は保温保冷補助材および成形断熱材の製造を行っています。当社は小規模の会社のため、法的には安全衛生委員会の設置は不要です。しかしながら、「安全」はみんなで話し合い築き上げていくことが重要と考え、安全衛生委員会を毎月開催しています。安全衛生委員会は社長を委員長とし、全従業員の約4分の1のメンバーで構成されています。委員会では、安全衛生管理計画の進捗確認に加え、4M (Man/Machine/Material/Method)に3H(初めて/変更/久しぶり)を含めた「変化点管理」による危険性有無の確認や、現場パトロールでの指摘事項が改善されるまで確認を継続するなど、積極的に安全衛生活動に取り組んでいます。また、KY活動やリスクアセスメント等の報告会を毎月1回開催して安全小集団活動の活性化を図り、危険に対する感受性の高い従業員育成「人づくり」を行っています。当社は、全員参加でこれらの活動に取り組み、「ゼロ災害」を継続します。

ワークライフバランスの推進

■ 有給休暇の取得推進

当社は、従業員が安心して働ける職場づくりの一環として、積極的な有給休暇の取得を推進しています。従業員には、年間の有給休暇の取得計画を提出させ、取得意識の向上、取得しやすい職場づくりに取り組んでいます。

■ 有給休暇取得率の推移

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
44.4%	48.6%	53.1%	61.2%

■ 在宅勤務制度の導入

妊娠中、育児や介護中の従業員における負担軽減や時間的な制約の緩和、および傷病から復職した従業員の通勤時の負担軽減を目的に、当社では「在宅勤務制度」を2020年1月より導入しました。

■ 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、お客さまおよび当社グループ従業員の健康・安全面の影響を考慮し、テレワークシステムの活用や在宅勤務、時差出勤の推進など、さまざまな対応を実施しています。

ダイバーシティへの取り組み

■ 障がい者雇用率の維持

当社では、全国の事業場において積極的に障がい者の採用を行っています。特別支援学校から実習生を受け入れるなど、障がい者の方が安心して長く勤めていただけるような取り組みを進めています。障がい者の方は、本社をはじめ、支社、工場などの全国の事業場において、一般事務、庶務、軽作業など、さまざま

な職場で活躍しています。当社の障がい者雇用率は2020年3月現在で2.3%となっています。

■ 障がい者雇用率の推移

2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
2.1%	2.1%	2.1%	2.3%

人材の開発と育成

■ 問題改善、課題達成に向けた人材の育成

世界中の当社グループで取り組んでいるNKK(ニチアス改善活動)では、「やってみよう!」「育む」「ありがとう」をキーワードに、生産や事務、営業など多種多様な職場でさらに「働きやすい明るい職場」をめざして取り組んでいます。当社ではこのNKKを通してメンバーの成長や問題解決できる人材の育成を支援しています。毎年、日本・欧米・中国・東南アジアの各地域で活動の発表会を行い、年末にはそこから選ばれた優秀チームが「NKK世界大会」にてその活動を披露します。その模様は国内外の事業場にライブ配信され、世界中の仲間と共有しています。

2019年度は、支店営業部門のメンバーが、働き方改革を目指して帳票の改善や他拠点にも展開できるシステムの構築に取り組み、見事金賞を受賞しました。



NKK東南アジア大会のようす

子ども参観日をはじめとした家族参加型イベントの充実

COLUMN

当社グループは会社と家族のつながりを大切に、家庭内でのコミュニケーションを向上させる活動を推進しています。

その一環として、従業員の子どもたちへ職業観の育成とご家族の仕事への理解を深めてもらうことを目的に、本社・支社・研究所では父母の職場見学や仕事体験をしてもらう「子ども参観日」や「家族参観日」を、製造設備がある事業場では「工場見学会」を実施しています。

本社 17名の子どもたちが参加

実験プログラムではロックウールの製造工程を模した綿菓子づくりをしました。この実験を通して当社製品を身近に感じてもらうことができました。



九州支社 18名の子どもたちが参加

名刺交換や、ウレタンを発泡させる実験、電話でのアポ取り体験・職場見学を通して、お父さん・お母さんの会社や仕事について多くのことを知ってもらいました。



鶴見研究所 9名の子どもたちが参加

液体窒素を使って風船を一瞬で固めるといった研究所ならではの実験を体験してもらいました。また、移動式ガスケツ加工トラック「ガスケツ工房™」の見学もおこなわれました。



社会とのつながり

ニチアスグループは、
支援活動や助成を通じた社会への貢献を意欲的に推進しています。
また、事業所がある地域社会とのコミュニケーションづくりを大切にしています。



社会貢献活動

■ 寄付・助成を通じた支援

当社は、CSR活動の一環として災害支援や学術研究支援などの見地から、さまざまな寄付・助成を行っています。2019年度は総額で約2,000万円の寄付・助成を行いました。

■ 学術研究に対する助成

当社は、日本の研究・開発機関に貢献すべく、研究開発に助成を行っています。助成先は、半導体関連、有機合成、セラミックス、分析・評価技術など最先端技術を中心に、幅広い分野にわたっています。また、海外の大学にも支援を広げています。2019年度は、総額約1,500万円の助成をしています。今後とも、有望と思われる分野、機関に助成を続けたいと考えています。

■ フードバンクへの備蓄食料の提供

当社は、食べられる状態にもかかわらず捨てられる食品(食品ロス)を、本当に食料に困っている方や福祉施設などへ無償で届けるフードバンクに協力をしています。2018年より定期的に食料の寄付を実施し、2019年度はアルファ米740食・飲料水660リットル・そのほかカンパンなどの寄付を実施しました。

■ インドネシアにおける快適・省エネ住宅に関する助成

当社は住宅断熱研究において以前より親交のある広島大学久保田准教授のプロジェクトを2016年度より支援しています。本プロジェクトは、インドネシアの住環境の研究機関であるPuskim (Pusat Penelitian dan Pengembangan Perumahan dan Permukiman)、インドネシアの大学および久保田准教授が共同で行い、中間層向け住宅の「快適性」と「省エネルギー化」を両立するための研究で、インドネシア住環境改善への貢献を目指しています。2016年度から4年間、総額約8,000万円の助成を行いました。2019年度に待望の実証実験住宅がインドネシア・テガル市で竣工し、今後の研究の推進に期待しております。



インドネシアの実証実験住宅

海外拠点での社会貢献活動

COLUMN

当社グループは世界各国に多数の生産・販売拠点を展開しています。各国の地域や従業員との調和を図りながら、ともに発展していけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

🇮🇩 インドネシア

PT. NICHIAS SUNIJAYA

- 各近隣の住民や孤児に寄付
- 家族見学会を開催

PT. NICHIAS ROCKWOOL INDONESIA

- 工場周辺清掃

PT. NICHIAS SUNIJAYA

- 各種寄付・義援活動(近隣モスク、孤児院)
- 家族見学会を開催

PT. NICHIAS METALWORKS INDONESIA

- 周辺地域に金属スクラップを提供
- 地域孤児院に自転車寄付
- 家族見学会を開催

🇲🇾 マレーシア

NICHIAS FGS SDN. BHD.

- 学校、宗教施設などに対する建築用パネルの寄付
- 近隣農家への肥料散布、農地整備
- ソノン島の海岸清掃
- 保全森(FGSの森)の手入れ・植林
- 献血活動

🇻🇳 ベトナム

NICHIAS HAIPHONG CO., LTD.

- 近隣の孤児院への義援活動(各種寄付、運動会、クリスマス会の開催)

🇹🇦 タイ

NICHIAS (THAILAND) CO., LTD.

- 拠点周辺地域の清掃活動
- ミラー財団(山岳少数民族への支援団体)への寄付
- 近隣小学校、寺院、病院へ物品の寄付
- 工業団地内の清掃活動に参加

THAI-NICHIAS ENGINEERING CO., LTD.

- 地元小学校の施設修繕活動の実施
- 植林活動

THAI NICHIAS INTERNATIONAL CO., LTD.

- マングローブの植樹
- 魚の寝床作り



🇸🇬 シンガポール

NICHIAS SINGAPORE PTE LTD

- 老人ホーム向け支援活動(寄付品の仕分けと手作り料理の手伝い活動)



🇨🇳 中国

蘇州露佳斯工業製品有限公司

- 家族見学会を開催
- 天平山での山岳清掃

蘇州露佳斯密封材料有限公司

- 家族見学会を開催
- 地域の慈善活動へ参加
- 蘇州市相城区漕湖開發商會として寄付活動に参加

蘇州双友汽車零部件有限公司

- 太倉市政府へマスクの寄付

露佳斯(上海)貿易有限公司

- 上海幼稚園への図書寄贈

🇮🇳 インド

NICHIAS INDUSTRIAL PRODUCTS PRIVATE LTD.

- 工場外周清掃の実施
- 従業員から標語を募集し、工場前に「Clean India」のボードを設置

🇲🇽 メキシコ

NAX MFG, S.A.DE C.V.

- 工業団地合同で市内グアグループ公園の清掃を実施
- ネオンマラソン大会(チャリティラン)への参加
- 従業員家族を対象とした職場見学会を開催

地域貢献活動

当社グループは全国各地に複数の事業所を有しています。各地域に根ざした活動を目標に各事業所がさまざまな取り組みを行っています。

□ ニチアス本社、支社、支店 ■ ニチアス研究所／工場 □ 子会社

事業所	取り組み内容
札幌支店	岩内町怒涛まつりへの寄付
仙台支店・福島営業所・日立営業所・鹿島支店	地域清掃活動
前橋営業所	地域清掃活動、前橋花火大会への協賛
千葉支店	献血活動、地元産業祭や消防団への寄付
本社・東京支社	地域清掃活動、交通安全街頭活動、感染予防対策にマスクを寄付
横浜支店	鶴見川清掃活動
神奈川支店	献血活動、大和市民まつりへの寄付
新潟営業所・富山営業所・山梨営業所・浜松支店	地域清掃活動
静岡支店	地域清掃活動、御前崎市社会福祉協議会への寄付
名古屋支社	赤い羽根募金、名古屋商工会議所への寄付
豊田支店	交通安全運動
四日市支店	地域清掃活動、おわせ港まつりなどへの寄付
若狭支店	地域清掃活動、三方五湖一斉清掃活動への参加、夏フェスタ美浜2019などへの寄付
京滋支店	彦根市社会福祉協議会などへの寄付
大阪支社	地域清掃活動、大阪商工会議所への寄付、難波神社夏祭りへの寄付
堺営業所・神戸営業所	地域清掃活動
姫路支店	地元秋祭りへの寄付
岡山支店	地域清掃活動、赤い羽根募金
広島支店	地域清掃活動、チャリティーカレンダー展への寄付、ペットボトルキャップの寄付
宇部営業所	地域清掃活動、日産化学植栽運動に参加、宇部まつりへの寄付
徳山支店	徳山夏まつりへの寄付、少年野球への協賛
四国営業所	地元祭りへの寄付
北九州営業所	地域清掃活動、地元自治体への寄付
九州支社	地域清掃活動
長崎支店	地域清掃活動、長崎秋祭りへの寄付、長崎市協働会ボランティアに参加
熊本支店	地域清掃活動、交通安全運動
大分営業所	地域清掃活動

事業所	取り組み内容
鶴見研究所	地域清掃活動、フードバンクへの備蓄食料の提供
浜松研究所	献血活動、フードバンクへの備蓄食料の提供、社会復帰を目指す若者向けの職場体験を運営
鶴見工場	河川清掃活動、バス停留所清掃、セタライトダウン
王寺工場・郡山分工場	工場周辺清掃、王寺町をはじめ自治体の多数イベントに参加、三郷中学校の職業体験を提供、地域交通安全活動、献血活動
羽島工場	24時間TV長良川清掃プロジェクトに参加、地蔵盆、工場周辺清掃、献血活動
袋井工場	2019年ラグビートライチャレンジへの参加、袋井遠州の花火大会警備員、工場周辺清掃
結城工場	工場周辺清掃
ニチアスセラテック	地域清掃活動、豊仙寺湖花火大会への寄付、台風19号災害ボランティアを実施
ニチアスシールテック	地域清掃活動、赤い羽根募金
国分工業	工場周辺清掃、近隣河川土手の清掃
竜田工業	工場周辺清掃、龍田神社秋季大祭へ参加
大田化成	工場周辺清掃、ブロック塀を解体し地元児童の通学路を確保、町内会への寄付
ニチアスメカテクノ	鶴見グリーンキャンペーンに参加
ニチアス関東販売	地域清掃活動、鶴見グリーンキャンペーンに参加
西日本ニチアス	地域清掃活動、盆踊り大会への協賛、ユニセフ募金
ハマアス	津波対策堤防への寄付
新日本熱学	地域清掃活動、地元祭りへの協賛
ニチアスエンジニアリングサービス	地域清掃活動
イノグリート	大阪マラソングリーンUP作戦に参加
ニチアス九州販売	地域清掃活動
福島ニチアス	地域清掃活動、地元祭りに神輿担ぎとして参加
熊本ニチアス	地域清掃活動、地元通学路での交通安全誘導活動
メタコート工業(奈良工場)	地域清掃活動、献血活動、交通安全運動、王寺郵便局への寄付
メタコート工業(岡山工場)	地域清掃活動、地元秋祭りへの寄付、旭川漁業協同組合への寄付
APJ	深見歴史の森清掃活動に参加、大和市民まつりへの協賛
N&Aテック	刈谷市主催530(ごみゼロ)運動に参加、刈谷工業団地主催イベントに参加
日本ロックウール	地域清掃活動
君津ロックウール	地域清掃活動
ニチアスセムグリート	地域清掃活動
アメニティ建材	地域清掃活動、地元夏祭りへの協賛
中村機械製作所	地域清掃活動、大阪市消防局への協賛

■ ラグビーワールドカップ2019関連イベントに参加 袋井工場

2019年6月29日、静岡県袋井市がラグビーワールドカップ日本大会の開催を盛り上げるために「2019年ラグビー『トライ』チャレンジ」を開催し、当社の従業員も参加しました。スタジアムにて、ラグビーボールに見立て、願い事を書いた風船を2019人が芝生へ向かって一斉にトライしました。



イベントに参加した袋井工場従業員

■ 通勤通学者のための交通安全対策を実施 大田化成(株)

横浜市鶴見区にある大田化成(株)は、通勤通学者のための交通安全対策を実施しました。交差点角のブロック塀を解体し、見通しのいいフェンスに変更しました。また、横浜市の通学者用グリーンベルトと横断歩道をつなぐグリーンゾーンを敷地内に設け、地域の交通安全活動に貢献しています。



工場敷地内に敷設されたグリーンベルト

環境への取り組み

ニチアスグループの製品は、断熱、流体の漏れ防止、遮音、耐食などの機能により、省エネルギー、省資源、安全衛生・環境保全など、お客さまの「環境」に関するニーズに応え、お客さまの使用ステージにおいて環境負荷の低減を実現しています。当社グループは、つねに「環境」を意識して活動しています。



ニチアス環境憲章

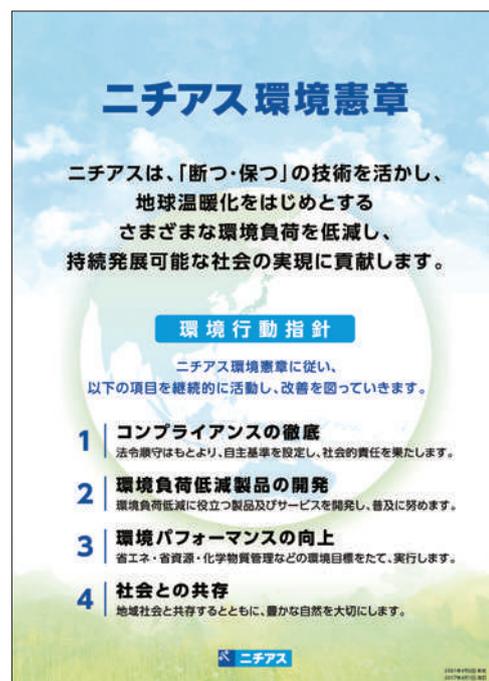
当社では環境改善活動を全社的なものにするべく、2001年4月に当社の環境方針となる「ニチアス環境憲章・環境行動指針」を制定しました。2017年4月には、環境に対する社会のニーズに合わせ、内容を変更しました。

これらを実行すべく、製造部門では環境マネジメントシステムの統合認証取得による環境管理活動を推進しており、事業部門ではより環境負荷を低減した製品の開発をめざし、管理部門では活動をより全社的なものにするべく、システムの構築や環境教育の実施に取り組んでいます。

● 環境行動指針

ニチアス環境憲章に従い、以下の項目を継続的に活動し、改善を図っていきます。

- 1 コンプライアンスの徹底**
法令順守はもとより、自主基準を設定し、社会的責任を果たします。
- 2 環境負荷低減製品の開発**
環境負荷低減に役立つ製品及びサービスを開発し、普及に努めます。
- 3 環境パフォーマンスの向上**
省エネ・省資源・化学物質管理などの環境目標をたて、実行します。
- 4 社会との共存**
地域社会と共存するとともに、豊かな自然を大切にします。



環境活動の推進体制

当社グループでは、1968年に現場改善分科会を設置し早期から環境対策を行ってきました。1990年代に入ると工場からの環境負荷低減はもとより、コンプライアンス徹底のための環境レベル診断、地域住民目線で工場周囲をチェックする環境パトロールなど、独自の方法で環境問題へ取り組み、リスクを低減してきました。このような対策の歴史から、2011年度より環境経営への転換を目的として、環境管理推進体制の整備を進めています。環境に配慮した活動を全社方針のもとで実現するため「全社環境委員会」を設置し、同委員会のもとに「管理」「製品」「工場」の3部会を置く体制としています。工場部会では、ISO14001のグループ会社統合取得を推進し、2020年度の全製造事業所統合をめざしています。2019年度には新たにグループ会社の6事業所でISO14001:2015の認証を取得し、当社グループ製造事業所の従業員のうち95%（前年度比9ポイントアップ）がISO14001認証取得事業所にて従事しています。

■ 環境管理推進体制図



ISO14001など環境マネジメントシステムの認証取得状況
<https://www.nichias.co.jp/environment/management/>

環境管理活動と目標

「ニチアス環境憲章」に基づき、環境中期方針（2016年度～2020年度）を新たに策定しました。環境中期方針では「コンプライアンスの徹底」「環境負荷低減製品の開発」「環境パフォーマンスの向上」「社会との共存」の4課題を設定して活動しています。

■ 環境中期方針に基づく2019年度の実績と2020年度の目標

	中期目標	2019年度目標	2019年度実績	評価	2020年度目標	
1 コンプライアンスの徹底	環境負荷や法的不備が変化点でわかる仕組みの構築	全事業場における環境法規の順守徹底の継続	外部審査、社内環境部門による環境監査にて大きな法令違反なし 法順守を維持できる仕組みが継続されている	○	全事業場における環境法規の順守徹底の継続	
	製品環境法規の順守徹底	製品環境法規の順守徹底の継続 継続的な毒劇物製品扱い者、危険物輸送担当者への教育	毒劇物取締法、消防法、国連危険物に関する製品の取り扱いから販売・輸送までの定期教育 製造事業場への危険物輸送責任者の選任と教育を実施	○	製品環境法規の順守徹底の継続 毒劇物製品扱い者、危険物輸送担当者への定期教育実施の仕組み策定	
	SDSの確実な提出	SDS作成と改訂の継続と確実な提出ラベル表示の順守継続	2019年度 SDS新規作成73件 改訂95件	○	SDS作成と改訂の継続と確実な提出ラベル表示の順守継続	
	全従業員への環境教育の実施	全従業員への定期環境教育の推進・維持の継続	全従業員向けeラーニング教育実施済 環境ボランティア活動の実行	全従業員向けeラーニング教育実施済 環境ボランティア活動の実行	○	全従業員への定期環境教育の推進・維持の継続
			eラーニングによる全従業員への環境教育の実施継続 受講率目標 95%以上の維持	eラーニングによる部門別環境教育の実施 受講率 98.4%	○	eラーニングによる全従業員への環境教育の実施継続 受講率目標 95%以上の維持
			安全衛生環境通信の発行継続	2019年度安全衛生環境通信を12回発行	○	安全衛生環境通信の発行継続
	環境委員会 工場・製品・管理部会の充実	工場・製品・管理部会それぞれの年2回開催の継続	各部会を年2回開催	○	工場・製品・管理部会それぞれの年2回開催の継続	
PCB含有機器の適切な処理の推進	PCB含有機器の調査推進と適切な処理継続	高濃度機器198台(安定器、コンデンサー)を処理 PCB含有機器の調査を継続	○	PCB含有機器の調査推進と適切な処理継続		
2 環境負荷低減製品の開発	未規制化学物資への自主的対応	製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底継続 未規制化学物資への自主的対応の継続	諸外国で規制化された物質の有害性情報よりリスクに応じて社内での取り扱い方法を適宜通知	○	製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底継続 未規制化学物資への自主的対応の継続	
	顧客グリーン調達への対応	顧客グリーン調達への対応継続 原材料グリーン調達の定期更新の継続	顧客からのグリーン調達調査は事業部で対応できる体制確立 2019年度グリーン調達結果 新規:150件(2018年度:94件) 更新:587件(2018年度:363件)	○	顧客グリーン調達への対応継続 原材料グリーン調達の定期更新の継続	
3 環境パフォーマンスの向上	産業廃棄物排出の削減	産業廃棄物排出量生産高原単位を2020年度末に2018年度比7%削減	グループ全体で産業廃棄物削減活動の継続により2018年度比10%削減	○	産業廃棄物排出量生産高原単位を2020年度末に2018年度比7%削減	
	原油換算エネルギーの削減	原油換算エネルギー原単位 2020年度末までに2015年度の必達目標 5%削減 努力目標 7.5%削減 (COP21目標に準拠)	生産性改善、省エネ機器導入、省エネ活動等を継続 2015年度比8%削減	○	原油換算エネルギー原単位2020年度末までに2015年度の必達目標 5%削減 努力目標 7.5%削減 (COP21目標に準拠)	
	国内製造拠点のISO14001取得事業所数向上	国内製造拠点のISO14001取得事業所数向上 2015年度末13事業所 2020年度末24事業所	熊本ニチアス、西日本ニチアス、ニチアスセラテックの3社6事業所を取得済(計21事業所取得) 未取得2子会社3事業所の取得準備を開始	○	国内製造拠点のISO14001取得事業所数向上 2015年度末13事業所 2020年度末24事業所	
4 社会との共存	情報公開の維持・推進	2019年CSRLレポートの発行	2019年6月CSRLレポートを発行	○	2020年CSRLレポートの発行	
	事業場の美観整備	工場整備計画の継続実施	福島ニチアス第7工場、ニチアスセラテック中野第1工場 完成	○	工場整備計画の継続実施	
	再発苦情の撲滅	再発苦情撲滅のための方策展開の継続 苦情となり得る設備の特定化とその管理方法の確立 環境苦情 ゼロ	環境会議などで再発防止策を水平展開 苦情となりうる設備の特定化とマップ化完了 環境苦情 3件発生、うち再発3件	×	苦情となりうる設備の重点管理実施 環境苦情 ゼロ	

環境パフォーマンス

持続可能な社会の構築に向けて環境負荷物質削減への取り組みを強化しています。

当社グループでは2015年度より環境活動範囲を拡大し、2017年度レポートより(株)君津ロックウールを、今レポートからは(株)熊本ニチアス、(株)西日本ニチアスのデータを追加しています。

ニチアスグループの環境負荷全体像

当社グループは、事業活動において投入するエネルギー量や化学物質・水資源などの物質量と、排出するCO₂量や産業廃棄物量などを把握するとともに、それらの削減に向けた具体的な目標を設定しPDCAサイクルを回すことで、環境負荷の低減に取り組んでいます。

INPUT

⚡ エネルギー

種別	使用量
電力	17,290万kWh
石油燃料	11千kℓ
ガス燃料	984万m ³
コークス	11千t

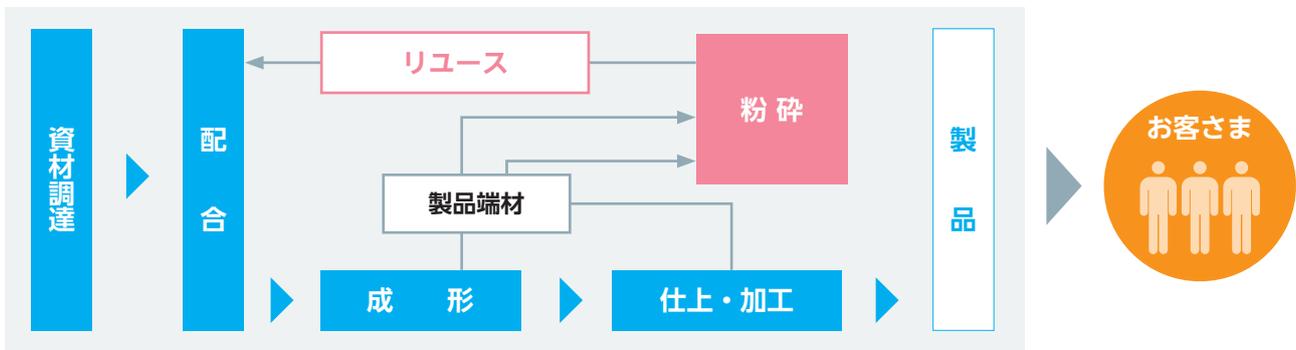
💧 水資源

種別	取水量
上水	27万m ³
工業用水	59万m ³
地下水	41万m ³

🧪 PRTR*対象物質

種類合計	48
使用量	2,554t

ニチアスグループの生産活動



OUTPUT

☁️ CO₂

種別	排出量
CO ₂	17.9万t

🏠 大気汚染物質

種別	排出量
硫黄酸化物	14.3t
窒素酸化物	86.0t
ばいじん	19.9t

💧 排水

種別	排出量
排水	58.8万m ³

💧 水質汚染物質

種別	排出量
浮遊物質(SS)	24.6t

🗑️ 産業廃棄物

種別	排出量
産業廃棄物	11,350t

🧪 主なPRTR*対象物質排出量

物質名	排出量
トルエン	182.3t
エチレングリコールモノエチルエーテル	3.2t
ホルムアルデヒド	2.7t
フェノール	2.1t
キシレン	1.7t
トリエチルアミン	1.3t

*特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

● エネルギーの効率利用実績

当社グループは2016年度からの環境中期計画では2020年度末までの5年間で2015年度比原油換算エネルギー生産高原単位5%減を必達目標とし、さらに努力目標を加えた7.5%の削減活動を進めています。

これはCOP21の削減目標を見据えたものになっています。2019年度も原油換算エネルギー生産高原単位は好結果を維持し、2015年度比では8%削減となりました。

なお、2019年度のCO₂排出量は、17.9万トンと2018年度に比べ0.8万トンの減少、CO₂排出量原単位は2015年度比13%の減となりました。

当社グループでは、積極的に省エネ機器の導入および更新の取り組みを進めており、2019年度の環境保全設備では、照明機器のLED化、省エネ型エアコンへの切替などで173百万円ほどの設備投資を行っています。

● 不要物・産業廃棄物排出実績

2019年度の事業活動における不要物^{注1}の排出量は総量15,691トンで前年度比1,306トンの減少、産業廃棄物の排出量は11,350トンで前年度比1,228トンの減少となりました。排出量生産高原単位では前年度比10ポイントの減少となり、2019年度末の目標を達成しています。これは2016年度に設備投資したロックワール工場の廃棄物再利用システムが引き続き順調に稼働していること、各拠点での不良低減活動、製造歩留まり改善、生産性向上などの活動を通して、確実に不要物、産業廃棄物を減量させていることによります。

なお、当社グループより排出される不要物から62%のものが再資源^{注2}として利用されています。

注1: グループから排出される有価売却物を含む廃棄物

注2: 最終処分(埋め立て)以外の中間処理、社内再生、有価売却されたものを再資源化と定義

● PRTR対象物質排出実績

2019年度の事業活動におけるPRTR対象物質は48種類、使用量は2,554トンで、前年度から4種・249トンの減少となりました。

使用量の減少および溶剤回収装置の大規模保全で大気への排出が2019年度は前年度比36トン減少、廃棄物排出で同じく17トン減少しています。

各生産拠点では、少しでも環境影響を減らすべく、溶剤除去・回収装置の保全、不良低減活動、生産性向上で化学物質取り扱い量の削減を図っています。また、PRTR対象物質を含まない洗浄剤や塗料への転換に継続して取り組んでいます。

エネルギー効率利用の取り組み

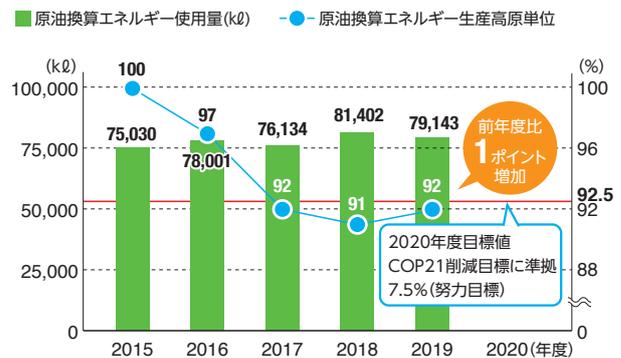
2015年度比の原油換算エネルギー生産高原単位

目標: 2020年度末までに5%削減
(努力目標7.5%削減)

2019年度実績

8% 削減

■ 原油換算エネルギー使用量および生産高原単位の推移 (当社グループ製造事業場)



※生産高原単位は2015年度を100%としています。

不要物・産業廃棄物削減の取り組み

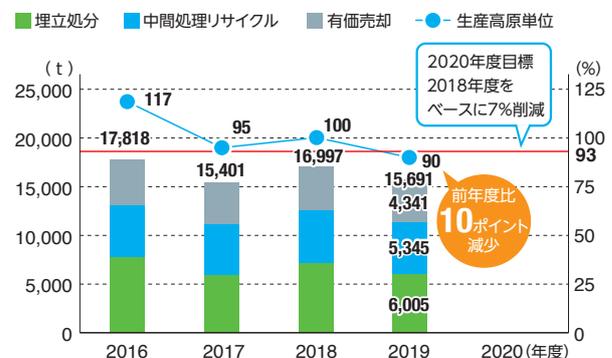
2020年度末までに産業廃棄物排出量生産高原単位

修正目標: 2018年度比7%削減

2019年度実績

10% 削減

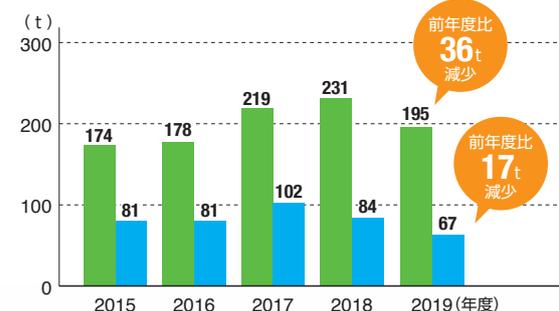
■ 不要物排出量および産業廃棄物生産高原単位の推移 (当社グループ製造事業場)



※生産高原単位は2018年度を100%としています。

■ PRTR対象物質排出量・廃棄物量の推移 (当社グループ製造事業場)

■ 大気への排出量 ■ 廃棄物量



環境マネジメントシステム

さまざまな環境問題に積極的に取り組むとともに、環境憲章に基づいた環境経営の実現をめざしていきます。

● 環境リスクマネジメント

製品含有化学物質管理への取り組み

製品の開発設計から、調達、製造、販売までの各段階において、化学物質規制に対するコンプライアンスを徹底する取り組みを継続しています。2019年度も継続して「製品含有化学物質の管理体制」の運用を進めてきました。従来から発行しているSDS(安全データシート)や製品ラベルなどお客さまへの提供資料を同体制に連動して作成・管理ができる仕組みとなっています。

環境パトロール

地域社会との共生を目的として、当社グループでは1990年から環境パトロールを実施しています。これは従業員が事業場の周囲をパトロールし「美観」「大気(粉じん・臭気)」「騒音・振動」「排水」の4つの項目を事業場の特性に合わせて確認する活動です。

2019年度はグループ全体で延べ143回パトロールを実施し、249件の指摘事項を改善しています。できるところから少しでも環境リスクを低減させるべく活動を継続しています。

外部からの指摘

2019年度は、製造事業場から発生する騒音や粉じんについてグループ全体で3件の指摘を受けました。(うち再発環境苦情は3件)

この3件の指摘対応はグループ全体に展開しました。さらに、新たな環境苦情防止に向けて、すべての製造事業場にて「環境苦情リスクマップ」を作成し、過去苦情や苦情発生が懸念される設備、作業を事前にチェックすることで苦情防止を図っています。指摘内容の対応経過や改善策は関係自治体へも報告、連絡しています。

環境啓発活動

2019年度も情報新聞「安全衛生環境通信」(月刊)の発行を継続し、社内外の安全衛生環境情報を全従業員に発信してきました。

また、従業員一人ひとりの環境に対する意識を高めていくような地域へ協力する種々の活動を展開しております。(P20参照)

● 環境監査体制

製造事業場では①製造事業場内での内部監査、②本社環境部門による監査、③外部審査機関による監査の3者による環境監査を実施しています。2019年度もISO14001工場統合認証継続活動の中で事業場間相互内部監査を実施しています。なお、これらの監査の結果、敷地境界騒音にて一部基準超過はあったものの重大な法令違反はありませんでした。

● 環境会計

事業活動における環境保全設備投資金額^{注1}は651百万円で、グループ全体の設備投資額の7.3%にあたります。新規製造ラインの公害防止設備の導入で前年度比53百万円の増加となりました。省エネ機器の採用や新工場建設にともなう緑地、環境施設の整備などの積極的な投資を継続しています。

また、環境設備の運転コスト・メンテナンス費用・人件費などを集計した環境保全コスト^{注2}は556百万円となり前年度比27百万円の増加となりました。

注1: 当社グループ全体を集計対象 注2: 当社製造工場のみを集計対象(グループ全体の集計は検討中)

■ 環境保全設備投資金額(当社グループ全体/2019年度)

(単位:百万円)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	239
	地球環境保全コスト	173
	資源循環コスト	29
管理活動コスト		210
合計		651

■ 環境保全コスト(当社製造工場/2019年度)

(単位:百万円)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	260
	地球環境保全コスト	35
	資源循環コスト	167
管理活動コスト		94
合計		556

● 環境教育・啓発

当社では全従業員を対象とした職種別eラーニングで環境教育を2013年から毎年実施しています。事業本部ごとに主管する製品が異なるため、本部別の教育内容と共通部分に分けての学習としています。2019年度の共通部分はSDGsの理解、当社グループ製品とSDGsのかかわりについての勉強としました。

TOPICS 袋井工場の環境活動

袋井工場は1964年に開設した当社の主力工場として、高機能樹脂製品、不燃建材、自動車部品、ハニカムフィルター、高機能ゴム製品を生産し、なかでも高機能樹脂製品と不燃建材は国内有数の生産量を誇っています。生産量が多いからこそ、袋井工場では資源の有効活用を促進しています。

なかでも不燃建材「エコラックス」は、天然資源の枯渇、資源の掘削による自然破壊を防止するため、原料に火力発電所や製紙工場より発生するリサイクル材を使用した製品です。また、工場内で発生する端材を原料化するなど、袋井工場はSDGsの12「つくる責任 つかう責任」の実践を進めています。

地域環境への配慮活動

1964年開設当初の工場周辺は田んぼや畑ばかりでしたが、JR袋井駅に近いという立地のため、近年、工場周辺には住宅、マンション、病院などの建設が進んでいます。

工場敷地内では、操業音が聞こえ、臭いがたどようこともあるため、周辺環境への影響防止には特に配慮しています。開設当初より、各種環境法規を順守してまいりましたが、周辺住民の方から気になる音や臭気に関してご指摘をいただくこともまれにありました。そこで、地域社会と共存していくために、継続的に環境対策を行ってきた結果、2019年度はご指摘をいただいております。以下は主な対策事例ですが、今後とも環境に配慮した改善を続けてまいります。

(1)臭気対策

建材工場から発生するパルプ臭を除去するため、脱臭装置を2006年に導入しました。導入以来、臭気による苦情はありません。袋井工場では脱臭装置は継続操業の要との思いで日々点検・メンテナンスを実施しています。



建材工場の脱臭装置

(2)騒音対策

対策開始当初は屋外設備の防音対策を推進。防音化しても、稼動音が大きかった建材乾燥設備の循環ファンモーターは2018年までに15台を静音型に入れ替えました。さらに、常設の騒音計を住宅地に近い工場北側に4カ所、南西側に1カ所設置し、工場から異常音の発生がないか24時間監視を行っています。



マイク部分の拡大

常設騒音計

(3)工場的美観改善

現在、袋井工場の東側ではメディカル地区と商業地域の開発が進められています。袋井工場では「勤務してみたくなるきれいな工場」をめざし、周辺住民の方々の目線で外観をチェックし、敷地内の植栽の手入れや建物の建て替え、塗装などの美観改善活動を順次実施しています。



現在の袋井工場(枠線内)とその周辺

VOICE



袋井工場 工業製品製造部
第2製造課 作業長

大場 英樹

工場内水路で鯉の飼育中!

2年ほど前から、袋井工場の高機能樹脂製品建屋の冷却水の排水路で鯉の飼育を始めました。

袋井工場全体で環境活動を進めていく中で、私たちの製造部門でも何かできないかと思い、水路に一年中水があるため幼魚を放流しました。

最初は、水路を伝って行方不明になった時期もありましたが、根気よくえさをやり続けることでいつも工場建屋脇の同じ場所に居つくようになりました。飼い始めた頃は15cmくらいでしたが今では40cmほどに成長しました。飼育を始めてからは異常水を水路に流れ込ませないことを常に意識して作業するようになりました。水と水路を汚さない活動を継続し、これからも大切に飼育していこうと思います。



2020年3月現在

ニチアス株式会社

〒104-8555 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号
TEL 03-4413-1194 (CSRチーム事務局)
<https://www.nichias.co.jp>



表紙の写真

ニチアスは古くから日本を象徴するトンボをトレードマークとして使用してきました。CSRレポートでは、トンボをテーマにした写真を当社グループの従業員から公募し、掲載しています。2020年の応募者数は49人でした。表紙の写真は「自然との調和」をイメージしたトンボの写真として、見事最優秀賞に輝いた作品です。

撮影者のコメント

毎年応募させていただいており、皆さまの素敵な作品を拝見して、今年も駄目だと思っていましたが、思いもかけず受賞の連絡をいただき大変光栄です。この写真は、昭和記念公園で撮影した絶滅危惧種のチョウトンボです。年々少なくなるこのトンボを天気の良い日にタイミングよく撮影できました。これからも写真撮影は続けていきたいと思えます。ありがとうございました。

ニチアス(株)管理本部 環境対策室 北河 正之

この印刷物
1冊あたり
CO₂ 243.8g



この印刷物は、日本水なし印刷協会、カーボンフリーコンサルティングを通じ、温室効果ガス削減プロジェクト（自然エネルギー事業）によって削減された CO₂ 排出権を購入することで、印刷物制作において排出された CO₂ を相殺しています。



印刷版の作成時に有害な現像液を使わず、また印刷の際にイソプロピルアルコールなどを含む湿水が不要な水なし印刷を採用しています。



この印刷物は鉱物油を使用せずに VOC（揮発性有機化合物）を含まない 100% 植物油型インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物の用紙は、責任ある管理がされた森林からの材を含む FSC® 認証紙を使用しています。



LC-CO₂ に関しては、こちらからご覧いただけます。